

■北海道胆振（いぶり）東部地震 透析にも影響

9月6日未明、震度7の地震が北海道を襲いました。大規模な土砂崩れとともに、道内全域が停電に見舞われ、透析施設にも停電や断水の被害が出ました。

道内の透析状況等について、^{ちさき} 苫小牧北海道腎臓病患者連絡協議会（道腎協）事務局長および小平全腎協ブロック担当理事が、地元の透析医会や災害対策本部が置かれている道庁と確認をとりあい、その情報を定期的に伝えてくれましたので概要をお伝えします。



（7日（金）午後現在）

- 札幌市内は、停電および断水が続いているところが多くある。自家発電のある透析施設では、透析時間を短縮するなどして対応しており、透析ができない施設では、他の施設で透析が受けられるように調整を進めてくれている。
- 札幌市以外の地域でも、停電や断水が続いているところがある。透析ができない施設では、同様に、周辺の施設にて透析が受けられるよう調整中。
- なお、受入れ調整中で透析施設からの連絡を待っている患者は不安な様子でいる。
- 透析時間が短くなったり、透析日の間隔が普段より空いたりする状況だが、透析ができない状況は回避できているようだ。

全腎協には、地震が発生した6日から「北海道の透析患者の皆さんがどうしているか心配だ」「連絡はとれているのか」など、被害状況や安否を気遣う声が多方面から多く寄せられました。

会報（腎臓病基礎医学講座）に登場いただいている花房規男先生（東京女子医大教授）をはじめ、東京都区部災害時透析医療ネットワークの先生方からも、「仕事などで東京にきている患者で北海道に帰宅出来ず、透析施設さがしに困っている方がいれば連絡ください」と支援の声が届きました。

全腎協は9月7日午前、事務局内に「災害対策本部」をたちあげ、災害状況に関する情報収集を開始しました。

透析に影響が出た医療機関： 54 施設

厚生労働省まとめ

9月8日午前6時現在

停電復旧により通常透析中：18 施設

周辺施設で対応中：30 施設

透析間隔を調整：6 施設

停電は、その後改善しつつあり、通常透析を再開する施設も徐々に増えています。

しかし、電力不足の状況は依然として続いているもようで、政府は8日、計画停電をさけるため、「北海道の皆様へ」として節電をよびかけました。



被災されたみなさん、現在も避難を余儀なくされているみなさんに
心よりお見舞いを申し上げます